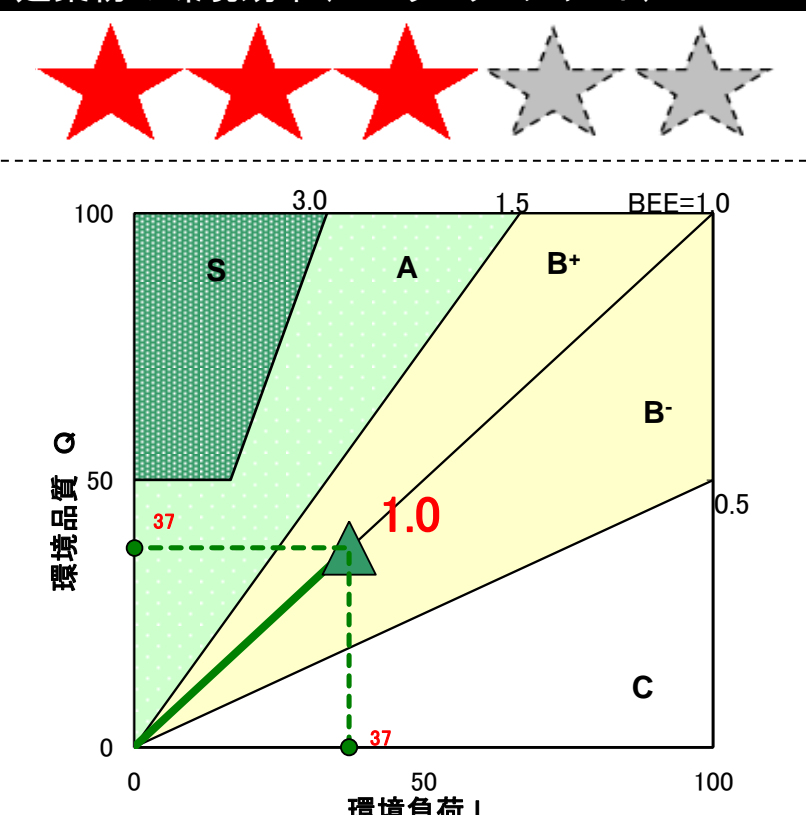


# CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	JAあまくさ大矢野農産物集送センター新築工事	階数	地上1階		
建設地	上天草市大矢野町登立字大坪1000	構造	S造		
用途地域	都市計画区域及び準都市計画区域	平均居住人員	20 人		
気候区分	地域区分V	年間使用時間	3,450 時間/年		
建物用途	工場,	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2014年2月 予定	評価の実施日	2013年12月2日		
敷地面積	9,451 m <sup>2</sup>	作成者			
建築面積	2,943 m <sup>2</sup>	確認日	2013年12月3日		
延床面積	2,828 m <sup>2</sup>	確認者			

## 1 CASBEE評価結果

### ■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



**BEE = 1.0**

■ BEE(環境効率) =  $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$


■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO<sub>2</sub> 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

### ■ ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出性能(ランク表示)



排出率

**83%**

## 2 熊本県重点評価結果

### ■ 重点事項総合評価



評価点

**77**

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

【重点事項4】 循環型社会の実現

評価点

**80.0**

**52.5**

**85.7**

**85.5**

■ 熊本県重点評価基準

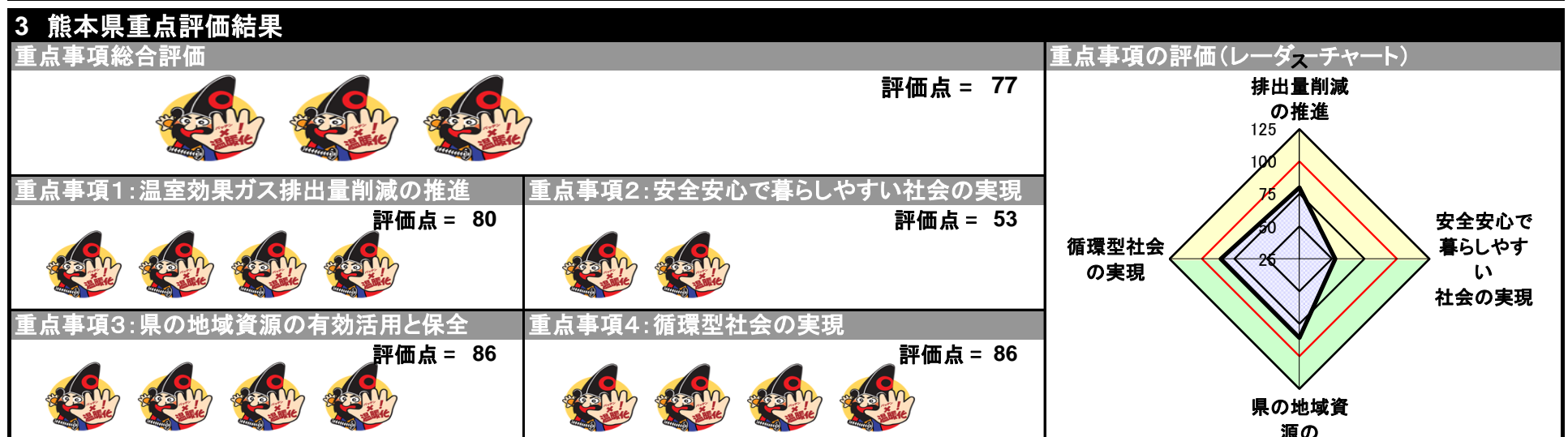
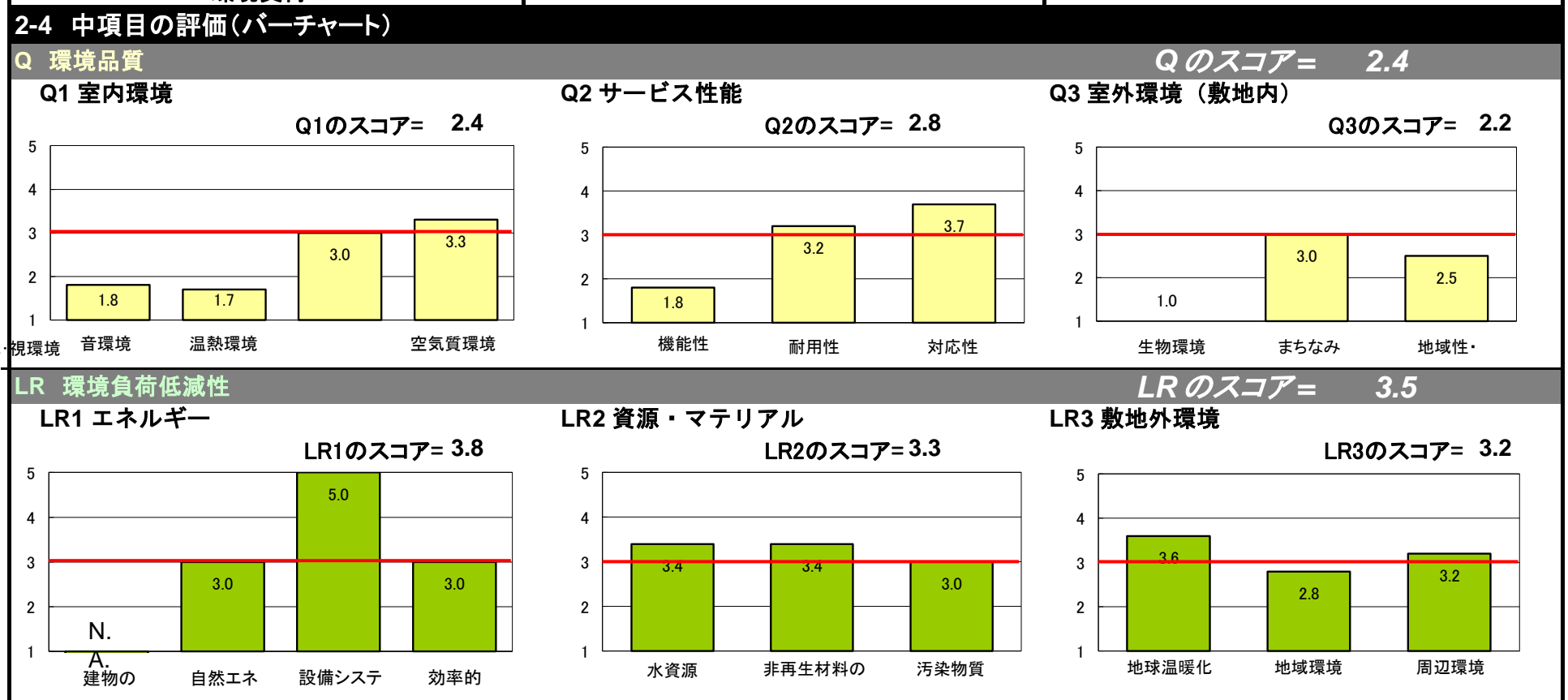
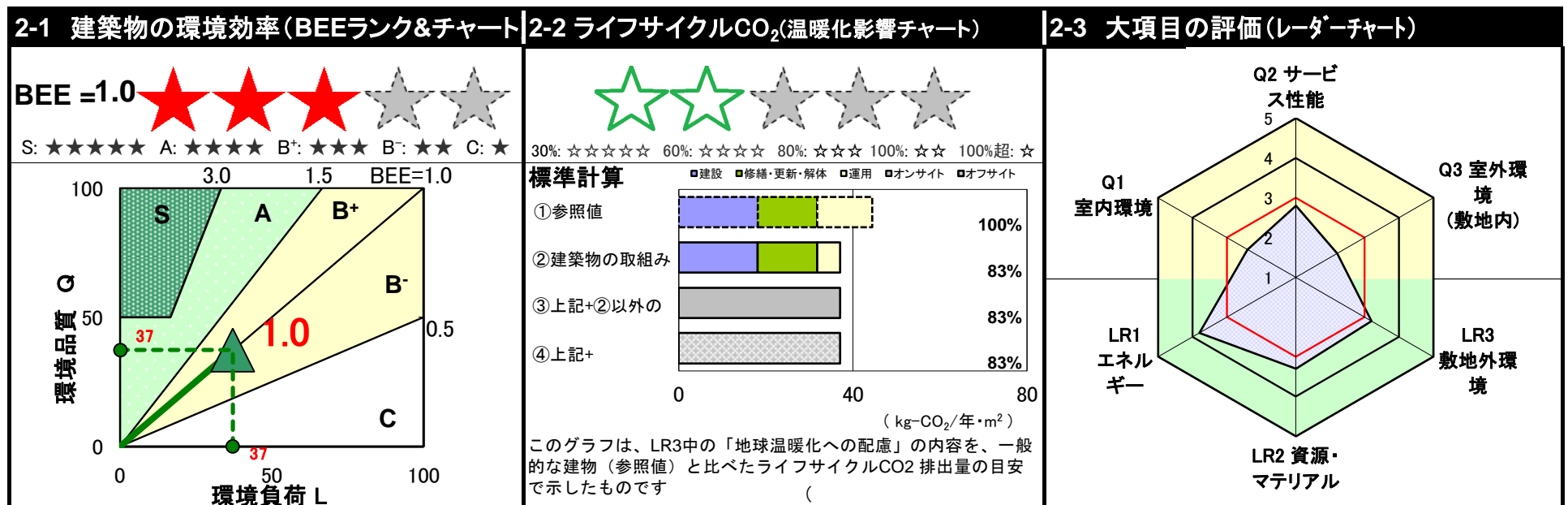
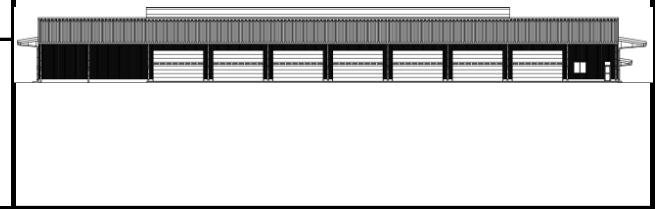
判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

# CASBEE® 熊本《新築》【評価結果】

■使用評価マニュアル：CASBEE-新築（簡易版）2010年版 | 使用評価ソフト：CASBEE-NCb\_2010(v.1.3)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	JAあまくさ大矢野農産物集送センター新築工事	階数	地上1階
建設地	上天草市大矢野町登立字大坪1000	構造	S造
用途地域	都市計画区域及び準都市計画区域	平均居住人員	20人
気候区分	地域区分V	年間使用時間	3,450時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年2月 予定	評価の実施日	2013年12月2日
敷地面積	9,451 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	2,943 m <sup>2</sup>	確認日	2013年12月3日
延床面積	2,828 m <sup>2</sup>	確認者	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-新築(簡易版)2010年版**  
**JAあまくさ大矢野農産物集送センター新築工事**

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010年版

■評価ソフト: CASBEE-NCb\_2010(v.1.3)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>2.4</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.30</b>					<b>2.4</b>
<b>1 音環境</b>		<b>1.8</b>	0.15	-	-			<b>1.8</b>
<b>1.1 騒音</b>		<b>3.0</b>	0.40	-	-			
1 室内騒音レベル		3.0	1.00	-	-			
2 設備騒音対策		-	-	-	-			
<b>1.2 遮音</b>		<b>1.0</b>	0.40	-	-			
1 開口部遮音性能		1.0	0.60	-	-			
2 界壁遮音性能		1.0	0.40	-	-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-			
<b>1.3 吸音</b>		<b>1.0</b>	0.20	-	-			
<b>2 温熱環境</b>		<b>1.7</b>	0.35	-	-			<b>1.7</b>
<b>2.1 室温制御</b>		<b>1.7</b>	0.50	-	-			
1 室温		3.0	0.38	-	-			
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-			
3 外皮性能		1.0	0.25	-	-			
4 ゾーン別制御性		1.0	0.38	-	-			
5 温度・湿度制御		-	-	-	-			
6 個別制御		-	-	-	-			
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-			
8 監視システム		-	-	-	-			
<b>2.2 湿度制御</b>		<b>3.0</b>	0.20	-	-			
<b>2.3 空調方式</b>		<b>1.0</b>	0.30	-	-			
<b>3 光・視環境</b>		<b>3.0</b>	0.25	-	-			<b>3.0</b>
<b>3.1 昼光利用</b>		<b>4.2</b>	0.30	-	-			
1 昼光率	事務室:4.5%	5.0	0.60	-	-			
2 方位別開口		-	-	-	-			
3 昼光利用設備		3.0	0.40	-	-			
<b>3.2 グレア対策</b>		<b>2.0</b>	0.30	-	-			
1 照明器具のグレア		-	-	-	-			
2 昼光制御		2.0	1.00	-	-			
3 映り込み対策		-	-	-	-			
<b>3.3 照度</b>		<b>3.0</b>	0.15	-	-			
<b>3.4 照明制御</b>		<b>3.0</b>	0.25	-	-			
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.3</b>	0.25	-	-			<b>3.3</b>
<b>4.1 発生源対策</b>		<b>4.0</b>	0.50	-	-			
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆または対象外	4.0	1.00	-	-			
2 アスベスト対策		-	-	-	-			
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-			
4 レジオネラ対策		-	-	-	-			
<b>4.2 換気</b>		<b>3.0</b>	0.30	-	-			
1 換気量		3.0	0.33	-	-			
2 自然換気性能	0.102(1/10以上)	5.0	0.33	-	-			
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.33	-	-			
4 給気計画		-	-	-	-			
<b>4.3 運用管理</b>		<b>2.0</b>	0.20	-	-			
1 CO <sub>2</sub> の監視		3.0	0.50	-	-			
2 喫煙の制御		1.0	0.50	-	-			
<b>Q2 サービス性能</b>		-	<b>0.30</b>	-	-			<b>2.8</b>
<b>1 機能性</b>		<b>1.8</b>	0.40	-	-			<b>1.8</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>		<b>3.0</b>	0.40	-	-			
1 広さ・収納性		1.0	0.33	-	-			
2 高度情報通信設備対応		1.0	0.33	-	-			
3 バリアフリー計画		1.0	0.33	-	-			
<b>1.2 心理性・快適性</b>		<b>1.6</b>	0.30	-	-			
1 広さ感・景観		3.0	0.33	-	-			
2 リフレッシュスペース		1.0	0.33	-	-			
3 内装計画		1.0	0.33	-	-			
<b>1.3 維持管理</b>		<b>3.0</b>	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-			
3 衛生管理業務		-	-	-	-			
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.2</b>	0.31	-	-			<b>3.2</b>
<b>2.1 耐震・免震</b>		<b>3.0</b>	0.48	-	-			
1 耐震性		3.0	0.80	-	-			
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-			
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>		<b>3.7</b>	0.33	-	-			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	ガルバリウム鋼板(40年)	5.0	0.23	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	B以上、E不使用	5.0	0.15	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-			

2.3 適切な更新			-	-	-	-
2.4 信頼性			3.0	0.19	-	-
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-
3	電気設備		3.0	0.20	-	-
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-
3 対応性・更新性			3.7	0.29	-	3.7
3.1 空間のゆとり			5.0	0.31	-	-
1	階高のゆとり	階高5.6m以上	5.0	0.60	-	-
2	空間の形状・自由さ	共用部:0.09	5.0	0.40	-	-
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	-	-
3.3 設備の更新性			3.4	0.38	-	-
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-
3	電気配線の更新性	仕上材を痛めることなく、更新・修繕できる。	5.0	0.11	-	-
4	通信配線の更新性	仕上材を痛めることなく、更新・修繕できる。	5.0	0.11	-	-
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.22	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.40	-	2.2
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40	-	3.8
1 建物の熱負荷抑制			-	-	-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	0.29	-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-
3 設備システムの高効率化		高効率設備	5.0	0.43	-	5.0
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)		ERR=58.1%	5.0		-	
集合住宅の評価			4.0		-	
4 効率的運用			3.0	0.29	-	3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	3.3
1 水資源保護			3.4	0.15	-	3.4
1.1	節水	節水・省水型機器	4.0	0.40	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			3.4	0.63	-	3.4
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.25	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.21	-	-
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	再生クラッシュ	3.0	0.21	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上材の分別が容易、設備等が錯綜しない	5.0	0.25	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.22	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.68	-	-
1	消火剤		-	-	-	-
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-
3	冷媒		3.0	0.50	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		省エネ設備の導入	3.6	0.33	-	3.6
2 地域環境への配慮			2.8	0.33	-	2.8
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.3	0.25	-	-
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-
3	交通負荷抑制		3.0	0.33	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.33	-	-
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-
1	騒音		3.0	0.33	-	-
2	振動		3.0	0.33	-	-
3	悪臭		3.0	0.33	-	-
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインの過半を満足	5.0	0.70	-	-
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-



# CASBEE<sup>®</sup> 熊本《新築》【配慮事項】

## 4 設計上の配慮事項

### 総合

環境に配慮し、敷地の広さを利用した余裕のある形状とし、シンプルで周辺に影響の少ない建物として計画しました。

### Q1 室内環境

内装材は全て基準をみたく、対象外またはF☆☆☆☆を採用し化学汚染物質被害を防止します。

### Q2 サービス性能

維持管理の省力化を図るために耐久性の高い屋根・外壁材を採用します。

### Q3 室外環境（敷地内）

周辺環境に配慮した低層でシンプルな建物形状としました。

### LR1 エネルギー

LED照明を採用し、省エネに配慮します。

### LR2 資源・マテリアル

自動水栓を採用し水資源の保護に努めます。  
再生クラッシュランを使用します。

### LR3 敷地外環境

光害対策のために広告用照明の設置を行いません。

### その他

**熊本県重点評価結果スコアシート** 実施設計段階

建物名称 **JAあまくさ大矢野農産物集送センター新築工事**

■評価ソフト: CASBEE-NCb\_2010(v1.3)\_kmt2011(v1.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点	76.7	
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)	スコア	重み 係数				
<b>① 温室効果ガス排出量削減の推進</b>				80	0.40	32.00
Q1-2.1.3	外皮性能	1.0	0.10			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.10			
Q1-3.2.2	昼光制御	2.0	0.10			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	0.0	0.00			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	5.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
<b>② 安全安心で暮らしやすい社会の実現</b>				52.5	0.20	10.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	1.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
<b>③ 県の地域資源の有効活用と保全</b>				85.7	0.20	17.14
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.29			
LR2-1.1	節水	4.0	0.43			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.29			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	0.0	0.00			
<b>④ 循環型社会の実現</b>				85.5	0.20	17.10
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.7	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.7	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数)の総和  
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数)の総和 × (5/4) × 20  
 ※重み係数の総和は、「1」であること。  
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数